

税が支える命

山梨市立山梨南中学校3年 三澤 慶

私は生まれて間もない頃に肝臓の病気を患った。生後五ヵ月だった。私はすぐ入院することになり、病気が発覚してから一年後、手術をすることとなった。手術は、肝臓の約三分の二を切り取るという大変大きな手術だった。手術の費用もかなり掛かるようで、当時、両親はとても困惑していたらしい。そんな時、両親は医師から、小児慢性特定疾病の医療費助成制度があることを聞いた。小児慢性特定疾病とは、簡単に言うと、いくつかの項目を満たしている重い病気のことである。この医療費助成制度では、そのような疾病の治療を受けた場合にかかる医療費を一定金額の自己負担金額以外は国が助成してくれるのである。私の場合、手術にかかる費用をこの制度によって全額払ってもらったため、両親は、とても安心したという。

ここで一つ疑問が浮かんだ。これらの制度は、国が助成、負担してくれるというのだが、そのお金はどこからきているのか。それは、税金である。税金は、「消費税」、「法人税」、「所得税」などがあり、全部で約五十種類存在する。そして国民全員がそのいずれかを払っている。税金として集められたお金は国のお金となる。そしてその一部が、医療費助成制度に使われているのだ。

税金は、外国との貿易や、公共事業をおこす際に使われていたり、公務員や警察官などの給料に使われていたりすることは、以前から知っていた。だが、自分が税について関わっているのは、消費税くらいだろうと思っていた。税がもっと深く自分に関わってくるのは自分が大人になってからだろうとしか考えていなかった。しかし、自分が小さい頃に税金によって命を助けてもらっていたことを知り、今は、税金やそれを払ってくれている人たちに対して感謝しかない。そして、自分が本や食べ物を買ったときに払う消費税のたった一円でも誰かの命を助けるのに使われているのかもしれないと考えると、税を払うことは、良いことをしているのかもしれないと思うことができる。インターネットでは、「自分が一生懸命働いたお金をなぜ、税金なんかに払わなければならないんだ。」という書き込みが見られる。しかし、その税金が一人の子供の命を助けるために使われているのだとすれば、自分も、その子供の命を救ったうちの一人と思うことができるのではないだろうか。

私は税金によって命を助けられたといっても過言ではない。もしかすると、自分の両親、先生、友だちや、その親、また、たまたますれちがった人たちの払った税金によって自分は今生きているのではないかとまで思う。自分の払った税金で自分の友人、家族、など多くの人を助けることができると思うと、あらためて税の大切さを実感する。